



## 新型コロナウイルスの世界的拡散から学ぶこと

中国が発症源とされる新型コロナウイルスの、あっという間の世界的拡散による感染者と死亡者の増加は地球規模での危機という事態にまで進行し、各国ではその対応に追われ、まさに鎖国ともいうべき、事実上の国境封鎖にまで至っている国も増えています。

国内においても、東京など大都市圏を中心に感染者がうなぎ登りに増え、本県でも例外ではなく、県や市町村、医療関係者等は、まさに非常事態として感染防止と感染者の治療に没頭している状況です。

当面の県内における新型コロナウイルスの感染防止対策については、県のHPやSNS、各種広報、マスコミ情報等で県民の皆様には情報提示とお願いをしていますので、是非とも最大限の注意を払って頂くようお願いいたします。

さて、今回の新型コロナウイルスからは多くの学ぶべきことがあるように思います。

当然に人それぞれ様々な考えがあり、私の考えが全てではありません。

しかし、一部結果論のようなところもありますが、これまでもこれらの点には警鐘を鳴らしていた識者もおり、また私たち地方に住む者の共通認識という面もあるのではないかと思います。

まず、今回の事態で直接的に大きな打撃を受けている産業分野は、特に中国からのインバウンドを対象とした観光関連産業と、中国を中心としてサプライチェーンを構築した製造業分野です。

我が国の人口減少局面にあって、観光振興による国内経済の活性化自体は頭から否定すべきものではなく、今回の新型コロナウイルス事態の終息後、再興することはもちろん必要で、本県においてもタイの観光大臣や台湾の観光産業のトップから、いずれコロナ禍が終息したら直ちに観光を中心に交流を復活したいという連絡が来ていますが、数だけ競うような、にわかインバウンドに傾斜し過ぎることにはリスクが伴うということでしょう。

また、国際競争のなかでやむを得ないとはいえ、コスト重視で海外にサプライチェーンを移し過ぎ、結果国内の産業空洞化を招いた製造業分野も、一定の国内生産体制を維持する方向への企業戦略の転換を余儀なくされることでしょう。

さらに、東京など首都圏や大都市圏における感染拡大が顕著ですが、人と人との接触による感染確率は人口密度に相乗的に比例するという数理的理論からも当然なことで、巨大災害も含め、人口や各種機能の一極集中は大きなリスクを背負っており、まさに地方創生、地方と大都市圏との人口分布のバランス是正は急務といえます。

古人曰く「過ぎたるは猶(なお)及ばざるが如し」